



葛飾キャンパス オープニングイベント Science Marche

サイエンスマルシェ

科学を街へ、科学の街へ



▲ 大勢の人で賑わっている様子

4月27日に葛飾キャンパス、葛飾にいじゅくみらい公園で「サイエンスマルシェ」というオープニングイベントが行われた。このイベントは参加型や体験型の企画が多く、一般の方々でも楽しめる式典であり、区と本学の関係者以外にも地元の方々、特に子供連れの方が来場していた。

キャンパス内では「サイエンス・ラボ」という企画が行われた。II部生物研究部による化石のレプリカ製造体験、天文研究部のプラネタリウムをはじめ、定番のスライム作りやプラ板アクセサリ作りなどの企画が用意されていた。また、三菱ガス化学株式会社によるカイロを作る実験、都立葛飾総合高等学校による電子オルゴールの製作体験など、地元の企業や高校の出演もあった。このように、キャンパス内では子供も大人も楽しめる体験型の実験が充実していた。

さらに、体育館にはNHK・Eテレの番組『大科学実験』で実際に使われた装置や器具が展示されていた。この番組は「やつてみなくちゃわからない」を合言葉に、誰でも体験したことのあるような日常の現象などをシンプルで大がかりな実験を行っている番組である。例えば温められた空気は上に行くという現象から、50人の男性を集めてその体温で頭上3メートルにある風車を回せるかというような実験や、糸電話はどれだけ離れた距離で会話できるかを検証するといった実験を行っている。一部JR線では車内モニターで1分ほどの実験映像が流れているので、この番組を知っているという方は多いかもしれない。展示してあるものの内の一歩は実際にその場で体験することができる。分かりやすく書かれた理論の説明に多くの方が感心していた。

葛飾にいじゅくみらい公園では野外ステージで催しが行われた。午前中は地元の小中学生による合唱や吹奏楽の演奏、地元のクラブによるチアダンス、フラダンスショーや迫力のある和太鼓演奏などが披露され、午後からは本学の団体であるジャグリングサークル、軽音楽部、グリークラブや吹奏楽団などが来場者たちを楽しませていた。これらの他にも葛飾区のご当地ヒーロー「ゼロング」によるヒーローショーが行われ、最後にはなんと今話題のアイドルグループ「アイドリング!!!」が登場した。彼女ら目当てに2、3時間並んでいる方も多く、最終的には300人近くの列を成していた。ライブが始まると、曲に合わせて熱くジャンプをする方やダンスの真似事をする小さな子どももいて、オープニングイベントの締めには相応しい盛大なステージとなった。

「葛飾Marche」、「葛飾の匠」というブースでは地元の店舗も出店されていた。「葛飾Marche」では、麺類や飯などの主

食をはじめ、メンチカツや餃子、揚げ物などの惣菜、パンやたこ焼きなどの軽食、焼き菓子やだんごといったデザートなどの様々な屋台が立ち並んだ。イベント開始から大盛況で屋過ぎには多くの屋台が売り切れとなった。「葛飾の匠」は地元の伝統工芸品を主に販売するブースで、江戸切子や東京銀器、硝子彫刻の品を売っていた。他にも伝統技能を体験することもでき、東京三味線を弾く音が聞こえていた。

このように今回のオープニングイベントは地域の皆様との交流、小さな子供たちに科学の面白さを知ってもらおうというコンセプトで行われていた。アンケートでは「簡単にできる実験をやっているのがよかった」、「体験コーナーが多くあつて子供も大人も楽しめた」、「地域の人たちとの交流ができることが大変良い」、「といった意見が多く寄せられ、大好評でイベントを終えることができた。また、今回のイベントが



▲開会式の様子

地域の方々が葛飾キャンパスに対してどのような印象を持っているのか、4月27日に行われたサイエンスマルシェの来場者を対象にアンケートを行った。

葛飾キャンパスが設立されたときとの印象は90%の人が好印象であり、悪印象をもつ人は1%ととても少なかった。そして、学生が通い始める

地域の方々が葛飾キャンパスに対してどのような印象を持っているのか、4月27日に行われたサイエンスマルシェの来場者を対象にアンケートを行った。

葛飾キャンパスが設立されたときとの印象は90%の人が好印象であり、悪印象をもつ人は1%ととても少なかった。そして、学生が通い始める

あることをどこで知りまし

たかというアンケートでは、意外にも「町内の掲示板や区の広報」といった意見が多かった。中でも一番多かったのは「小学校に通う子供が学校から当イベントのプリントをもらってきたから」という意見で、葛飾区全体で葛飾キャンパスを歓迎してくれているのを感じられた。中には子供が本学の葛飾キャンパスに通っているという方や自身が本学の卒業生という方も見受けられ、葛飾区外からの来場者も多かったようである。

ちなみに今回のような大々的なイベントを再び行うかどうかは未定だが、地域交流はこれからも行っていくとのことなので、今後もイベント情報に注目したい。

てからも同じように好印象を持たれている。それは葛飾キャンパスができたことによつて地域が活性化されたことが主な要因だろう。せっかく地域の方々に好印象を持たれているのだから、本学の学生には印象を悪くしないように頑張ってもらいたい。

一般の方が一部の施設を利用できることに關して、そのことを知っていても利用したことのない人がほとんどであったが、これから利用したいという人は多かった。また利用したことのある方からは、「綺麗で使いやすい」、「学食がおいしかった」、「早く図書館を使いたい」などの感想をいただいた。5月7日から図書館も開放されたため、葛飾キャンパスで一般の方と触れ合う機会がさらに増えた。

そして、本学への要望をうかがったところ、「今回のようなイベントをまたやってほしい」、「これから葛飾を盛り上げて欲しい」などの意見が大多数を占めており、今後さらに地域の方々との交流が深まることを期待される。

